

# 法律学の始発駅

長谷部恭男

2021年7月下旬発売／208頁／定価1870円(税込)  
四六判／並製



**編集  
担当者  
から**

本書は、法律学の入門書です。私は、自分でこの本を企画し、自分で執筆を依頼しておきながら、第一稿を頂戴して初読した際に、「この先の学生は学習の最初の段階で本書を読んで、それから学習を進めることができるのか。なんてうらやましい」という感想を抱きました。

本誌の読者のみなさんは、もはや初学者とはいえないかもしれませんが、私が編集担当者として、本書の帯において「ここから法律学の世界へ旅立とう」という言葉に続けて「旅の途中の人も、ぜひ」としたのは、みなさんのような法律学の学習に既に本格的に取り組んでいる人にもぜひ本書を読んでほしいと考えたからです。本書で繰り返し出てくる「調整問題」「ベースライン」「比較不能」といった概念をしっかりと身に付けることは、法的思考を組み立てていくうえで非常に有益だと思います。

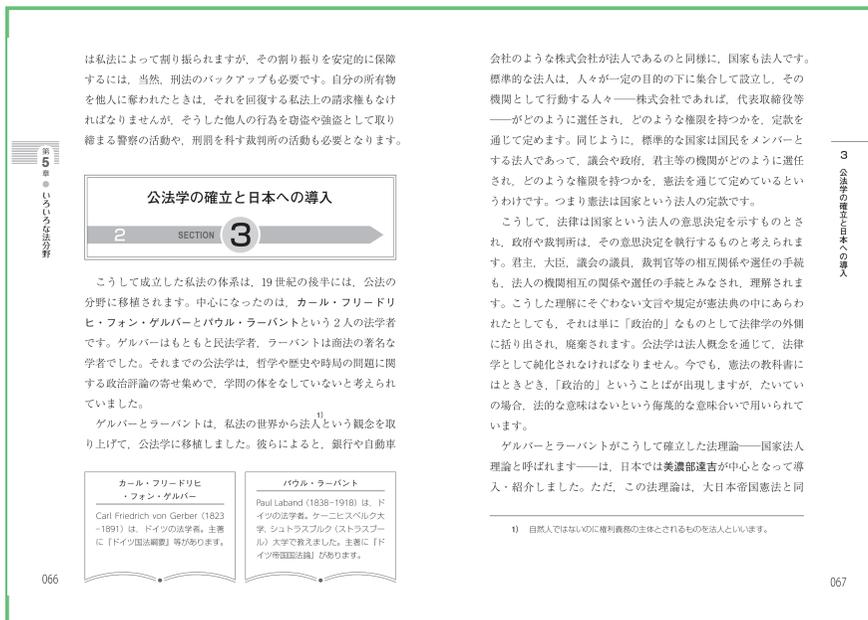
また、本書は、法とは一体何か、法と道徳の違いはどこにあるか、裁判では何が問題とされるかといったことを、順序立てて述べ説きます。これらのことは、法律学という学問が、高校までで学習した倫理や世界史と地続きのものであることを感じさせてくれることでしょう。

この段階で本書に出会えるみなさんのことも、私はうらやましく思います。(山下)

**Point!**

**P**

遊び心あふれる紙面デザイン。基礎的な法律用語や著名法学者についても簡潔に説明。



※目次は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

